

「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」ニュース 44

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」 広報委員会
〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階
TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180
E-Mail esm-hq@eco-texj.co.jp

盛夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

研究フォーラム・ニュース 44 号を配信させていただきます。

<7月9日木曜、第38回フォーラムセミナーが開催されました>

今回は YKK 株式会社・ファスニング事業部の品質環境センター・品質保証室・室長・野坂武志氏と商品企画グループ・前川貢氏から同社の「環境課題」への取り組みを、また当会・顧問・清水二郎東工大名誉教授から講演をいただきました。



野坂室長は「製品含有化学物質の世界の潮流とその対応とYFGP」（製品価値向上に向けた含有物質規制対応の取り組み）と題し、同社の会社概要を話された後、1994年YKKグループ環境憲章を制定しグループ全社をあげて環境対策に取り組んでいる様子に触れ、世界の環境問題への配慮や規制への対応、顧客からの含有化学物質情報の提供要望に迅速に応えるために含有化学物質の一元

管理するシステムとしてYFGP（YKKファスニンググリーン調達）システムを構築したと説明されました。このシステムは製品の構成情報から展開される材料・副資材等の購入品に化学物質情報を結びつけ、環境BOM（製品含有物質情報展開部品表）を作ることで製品安全の保証を支援しようとするもの。グローバルな規制に対応できる基準、迅速な対応可能な基準の整理、制度の高いDBの構築をグリーン調達調査方針としている。

含有物質に関する調査回答依頼は年々増加しており、2009年前半六ヶ月で約300件に達し、システム導入前は依頼件数の半数の回答に10日を必要としていたが、導入後は1日で

対応できるようになった。システムは日本では2006年試験運用開始し、2007年スタートしており、これ以後香港を初めとしてアジア各国へ、本年後半には欧州、来年はアメリカでの海外対応展開を進めているとのこと。これは同じ製品でも調達先が異なることがあり、これを含めた対応が出来るものになっている。

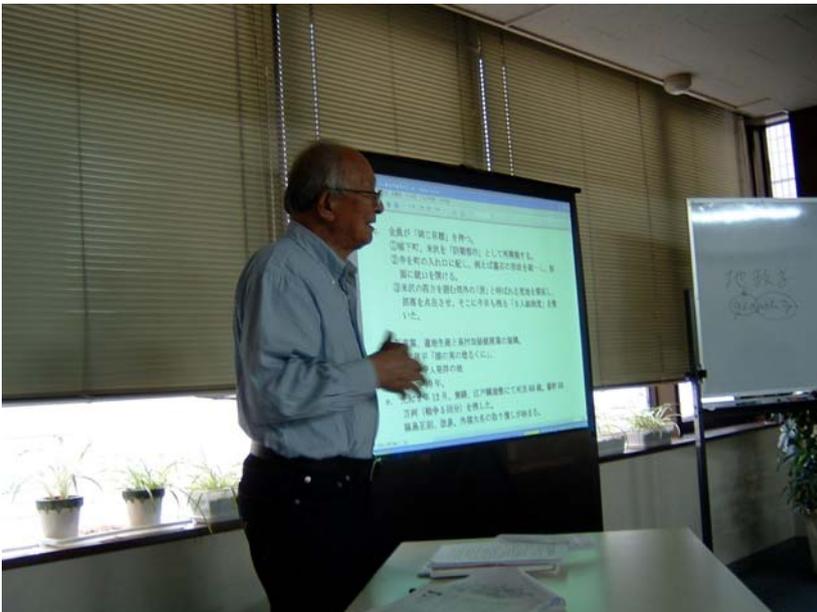
EUでは既に2007年6月にREACHが施行、米国ではCPSIA(消費者製品安全改正法)に2008年8月大統領署名がされるなど各国では法規制が進められ、各々のタイムラインが決められているなど、重金属の検査体制など課題を明確にし社内体制の整備を図っていくとのことでした。



続いて商品企画グループ前川氏から同社の環境対応商品への取り組みについてお話をいただきました。同社では世界の主要国の環境課題を把握し、その対応のタイムスケジュールを立て、環境経営6つの施策のもとに商品開発に取り組んでおり、同社の環境商品への取り組みの概要を説明した一冊を作成し、商品のライフサイクルアセスメント(LCA)効果、生産工程における環境配慮、植樹じぎょうの紹介など図っているとのことでした。

環境配慮、植樹じぎょうの紹介など図っているとのことでした。

セミナー後半では清水顧問から「これまで30年、これからの30年・・・Change is Chance・・・」と題して講演をいただきました。



はじめにピンチを切り抜けるためのリーダーとしての発想の転換のエピソードとして、今年NHK大河ドラマにも取り上げられている直江兼続が会津120万石からその四分の一の米沢30万石へ移された際、彼のとった行動・政策についてお話をされました。兼続は移封により収入が減り狭い領地になったことをマイナスに考えず、高度労働力すなわち「高度の産業力」を得たととら

え、人員を減らすのは一番の愚策であり、むしろ人員を確保して給与を減らす、その際「上薄下厚」とし重役は1/4、平役は1/3の給与とし、自らは1/5の5千石に減らし、予備の財源も作った。同時に全員が同じ目標を持ち、城下の都市改革をすすめ、戦への備

えや土地開拓の5人組制度を作り、新しい産業を興し適地生産と高付加価値産業の振興を進めた。そして20年、兼続は死去するが蓄財50万両を残し、戦へ備えさせ、外様大名の取り潰しにも耐える藩とした。ここで見るのはリーダーシップとは何か、リーダーの存在理由と存在感とは何であるかと。

この後、1945年から1995年までの経済成長（国民総生産GDP）とそれを牽引した産業、そして各時点での事象と中国各都市でのGDPを示した図表を示し、終戦直後GDP19兆円から成長し、第一次、第二次のオイルショックを克服して70年代後半から90年代まで第二期成長期に入り、再びアメリカと肩を並べるようになった推移を解説され、この間日本の産業を牽引した機関技術とその産業例をあげこれまでの30年を分析し、これからの30年を考えると今、何に注目すべきかの課題に話を進めるところで前半の話を区切り、次回のセミナーで後半をとして講演を一旦終わりとしました。

<次回、第39回 フォーラムセミナー開催のお知らせ>

日時 2009年9月3日木曜 14:00~17:00 (17:00~懇親会)

1. 講演「スイス Migros 社における繊維製品に安全についての持続的維持管理」
近藤繁樹事務局長
2. 講演「これまでの30年、これからの30年」 (前回の講演の後半)
東京工業大学名誉教授
CSR&コンプライアンス研究フォーラム顧問
清水二郎氏
3. CSR 関連情報および事務局連絡

セミナー終了後 17:00 より懇親会

編集後記

- ・ 前回のセミナーでCSR関連情報として取り上げましたYFGP（YKKファスニング・グリーン調達）システムについて、YKK株式会社古稻氏に早速講演をお願いしたところお引き受けいただき、品質保証室・室長・野坂武志氏にご講演いただきました。
- ・ また、セミナーの後半では当会顧問・清水先生に「これまでの30年、これからの30年」と題して講演をいただきました。これは2006年繊維学会誌に出稿されたものを、昨年来再び経済低迷の時代に入った今、2009年夏の視点でお話いただいているものです。
- ・ 次回第39回セミナーでは先月末、近藤事務局長がドイツへ出張し、その際得られた繊維製品の安全管理についてのシステム情報を取り上げる予定です。

以上